



多様な連携から広がる 地域づくりと社会教育主事の役割

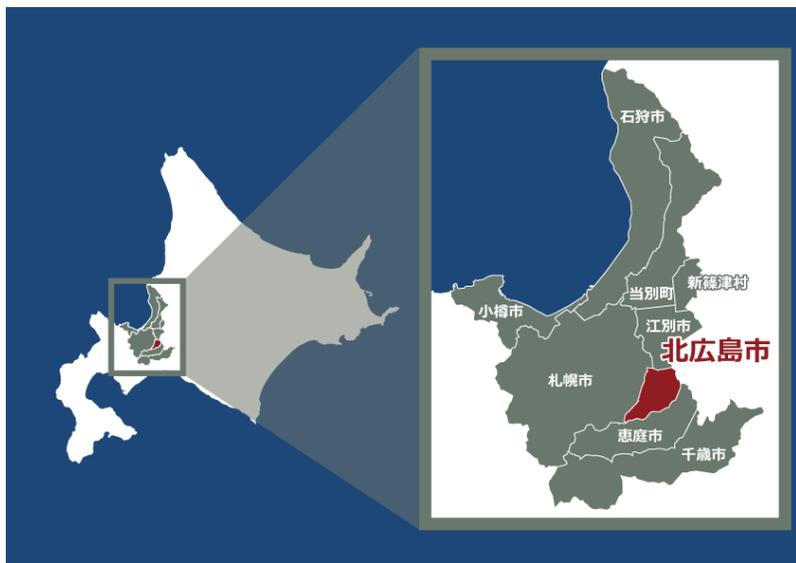


日時：2026年 2月26日（木）10：30～

北海道北広島市教育委員会

教育長 吉田智樹

北広島市の概要



北広島市の概況

- 人口: 56,109人
- 世帯数: 28,587世帯
(令和7年12月末日現在)
- 面積: 119.05km²



- 北広島市は、**札幌市と新千歳空港の中間**に位置し、緑に囲まれたゆとりある土地空間と優れた交通網など自然と都市機能が調和したまちで、札幌圏のベッドタウンとして成長してきた。
- 市内は、**東部地区、西の里地区、大曲地区、西部地区、北広島団地地区**の5つの地区に分かれている。

北広島市

■ 人口:56,109人(R7.12月末)

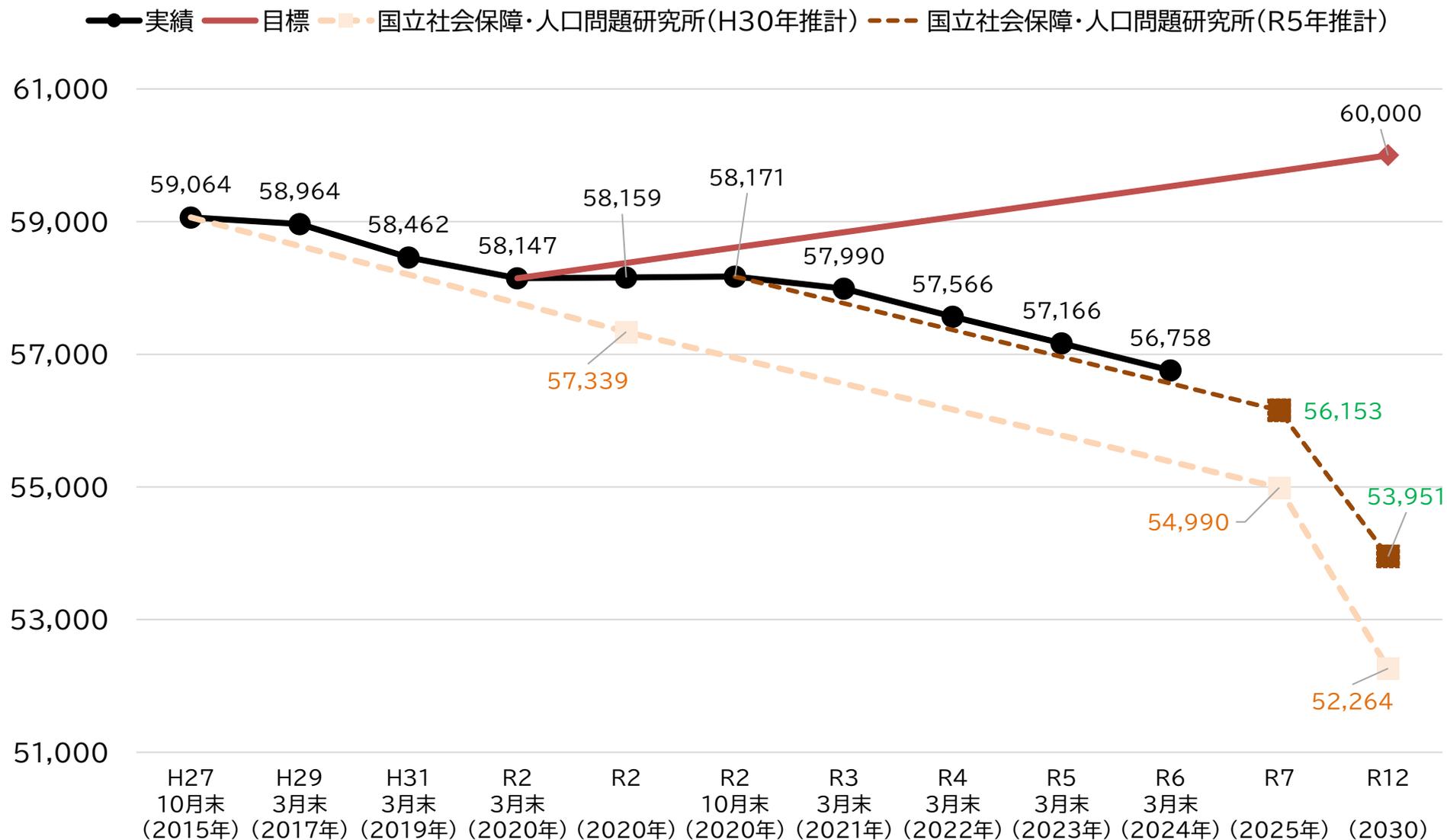
- ・西の里地区 : 6,475人
- ・東部地区 : 15,673人
- ・大曲地区 : 16,235人
- ・北広島団地地区: 13,987人
- ・西部地区 : 3,739人

■ 世帯数:28,587世帯

■ 面積:119.05km²



北広島市の概要

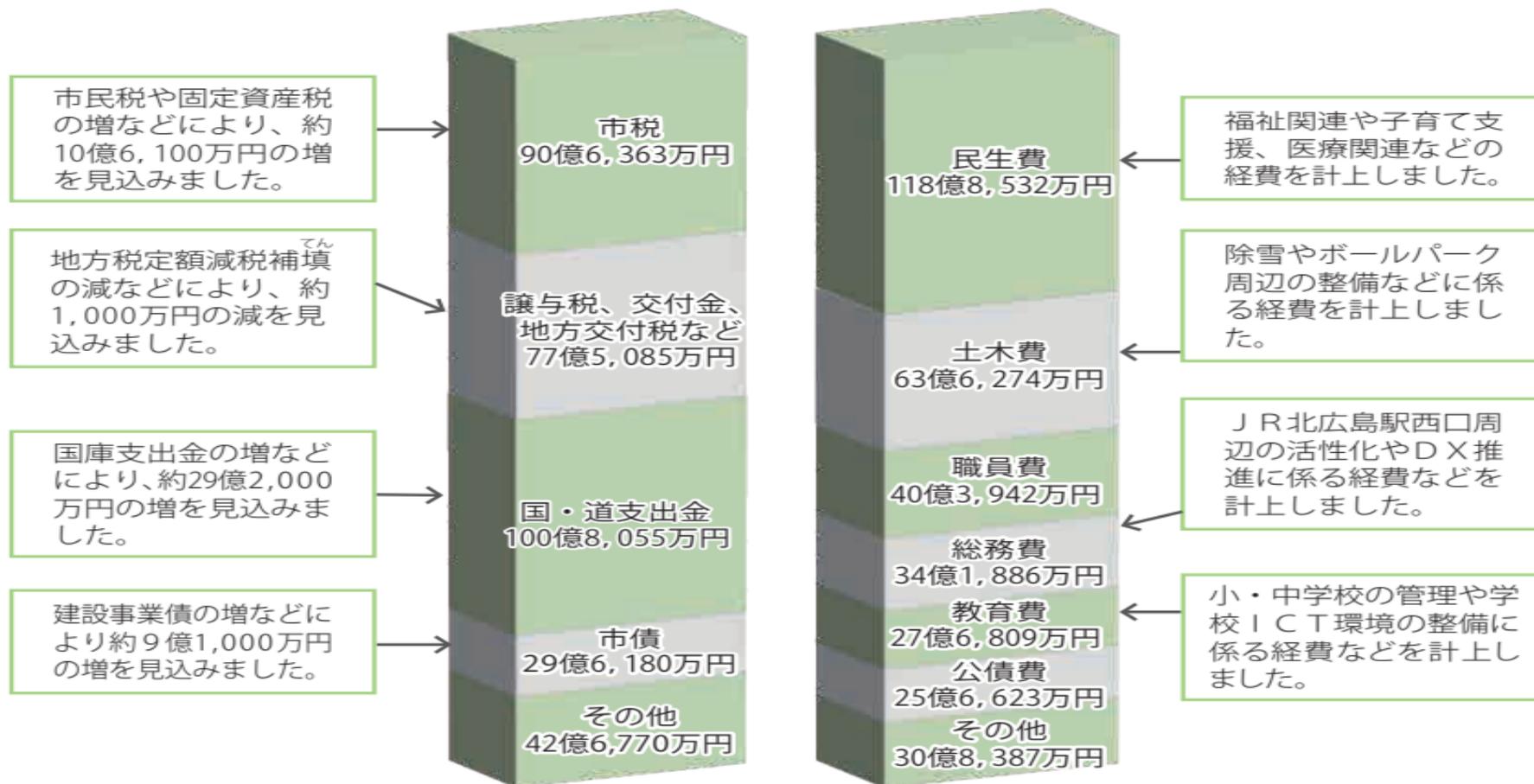


H29は国勢調査、H29～R6の各3月末は住民基本台帳

令和7年度 一般会計の概要

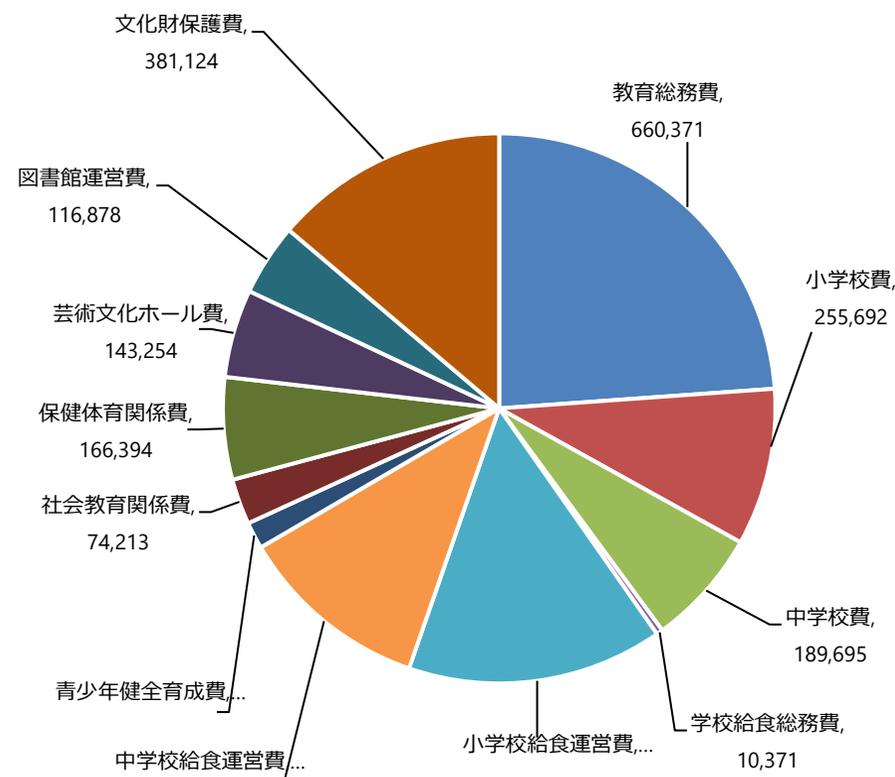
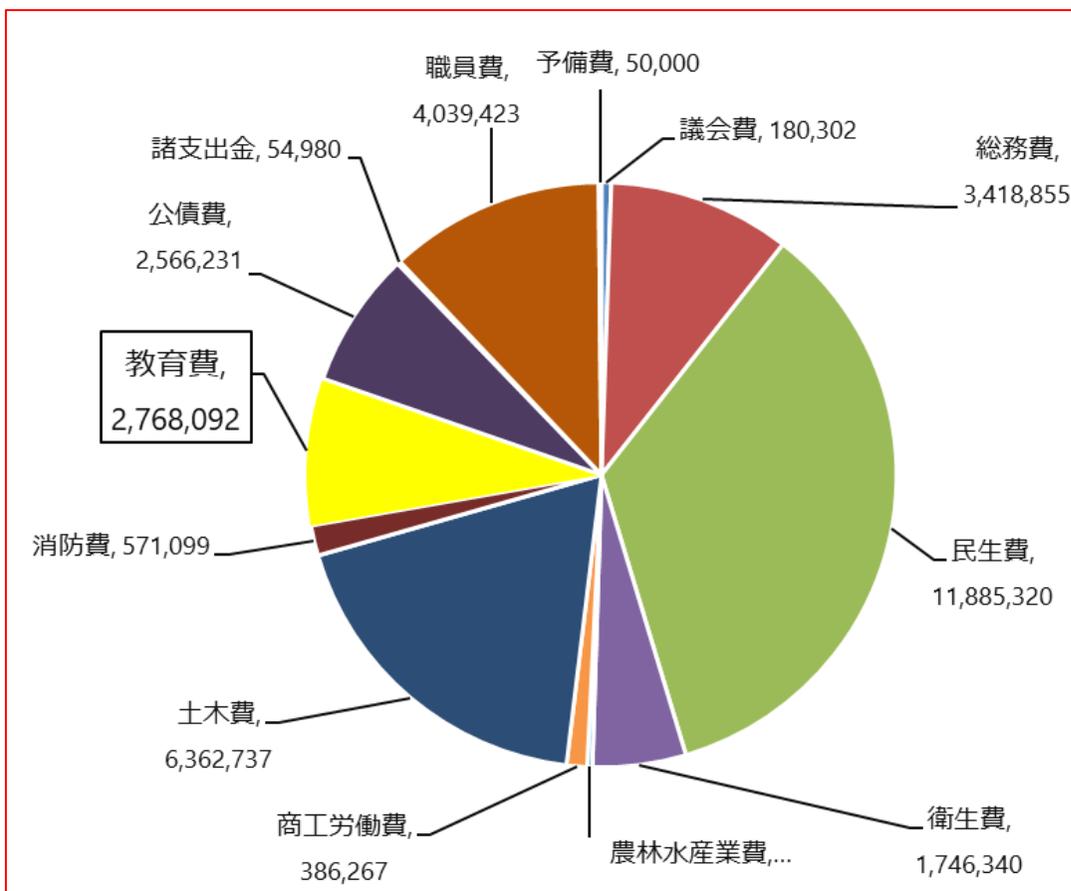
歳入 341億2,453万円

歳出 341億2,453万円



(1万円未満は四捨五入で表示)

教育予算：約27億6,800万円（8.2%）



明治開拓期 広島村の時代

- 1884（明治17）広島県人25戸103人が開拓
- 1894（明治27）札幌郡広島村になる

広島町の時代

- 1968（昭和43）町制施行、広島町になる
- 1970（昭和45）道営北広島団地が起工
- 1971（昭和46）人口10,230人となる

北広島市の時代

- 1996（平成8）市制施行、北広島市になる
- 2004（平成16）人口60,253人となる
- 2007（平成19）人口61,174人となる

北広島市の教育理念

豊かな知性や心と 健やかな身体をもって
自然と創造の調和を図り、郷土を愛し、未来を切り拓く人を育む
(昭和44年8月制定、昭和60年3月改訂、令和3年2月改訂)

目指す人間像

希望を懐く



W.S.クラーク博士

交流に励む



和田 郁次郎

成長に挑む



中山 久蔵



8 小学校（分校1）2,585人 **3,971人**
 6 中学校（分校1）1,386人



西の里小学校・陽香分校
 西の里中学校・陽香分校

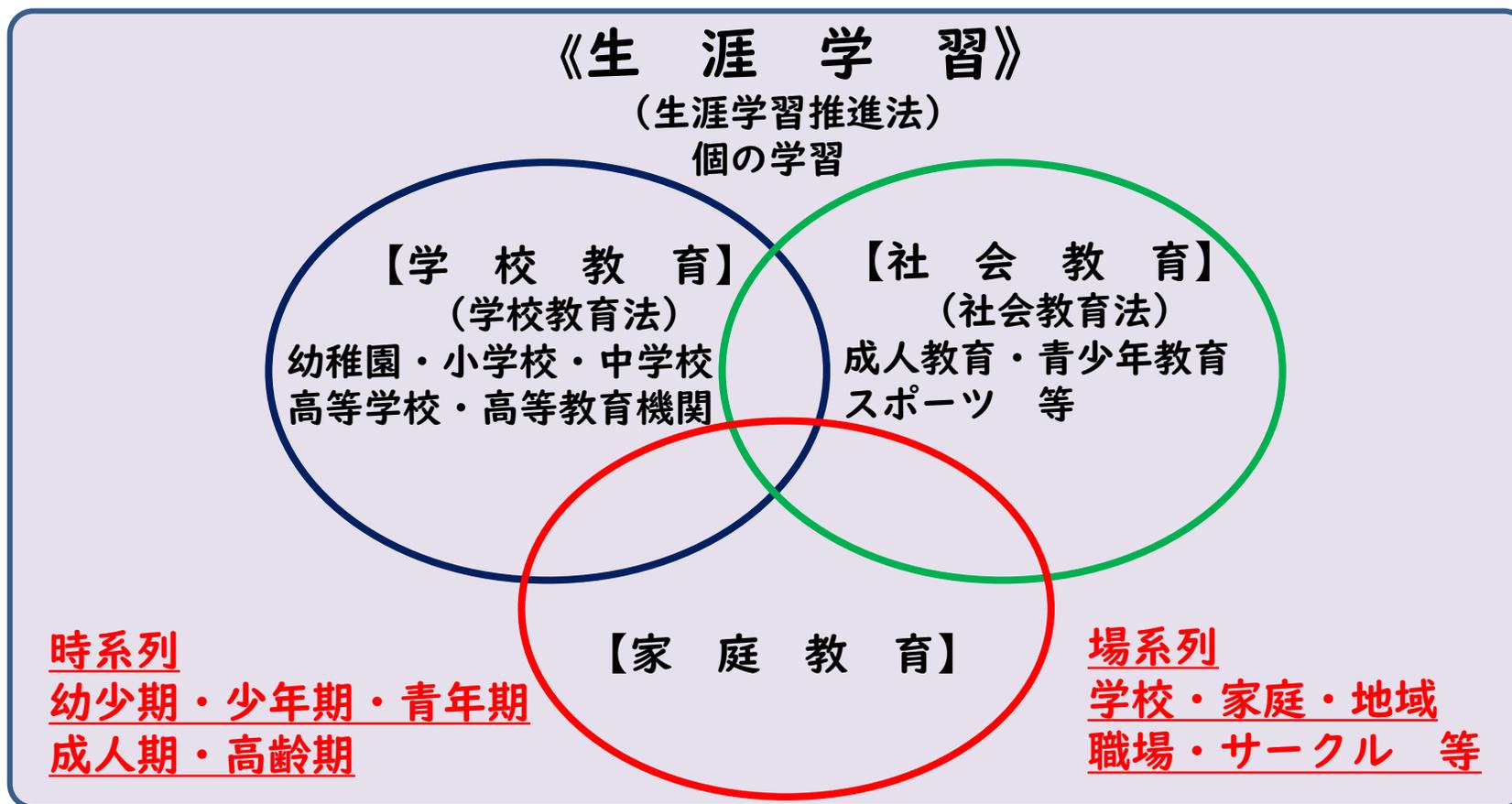
東部小学校
 北の台小学校
 東部中学校

大曲地区
 大曲小学校
 大曲東小学校
 大曲中学校

双葉小学校
 広葉中学校

緑ヶ丘小学校
 緑陽中学校

西部小学校
 西部中学校



「生涯学習」は、教育による学習として、学校教育や家庭教育と社会教育における学習のほか、組織的に行わない個人的な学習も含むという点で、社会教育より広い活動を対象とする概念

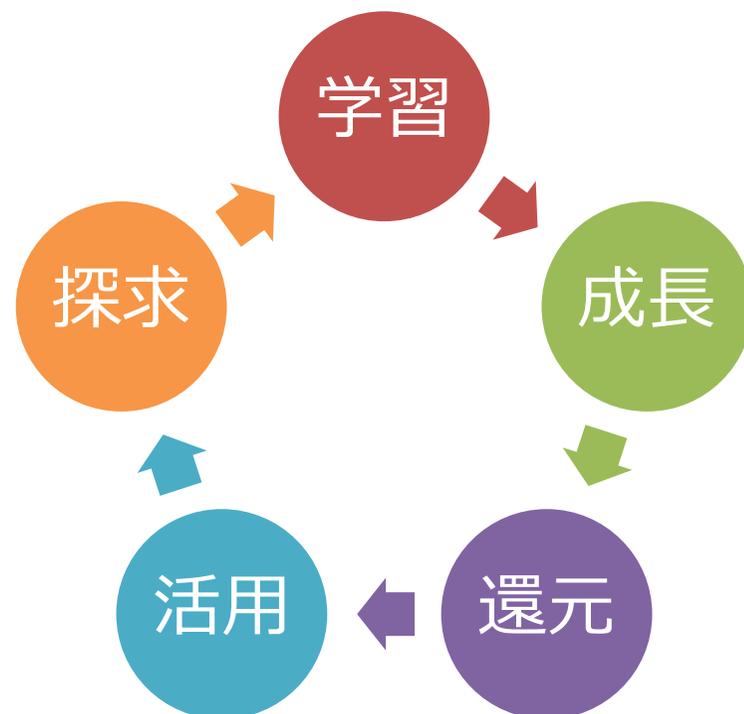
【 必 要 課 題 】

地域課題	生活課題
交通問題 (公害・渋滞) 高齢化社会 (一人暮らし老人) ボランティア (福祉・交通安全)	技術革新 (AI機器操作・携帯電話) 消費生活 (食品衛生・悪徳商法) 生活環境 (ゴミ・騒音)

【 要 求 課 題 】

教 養 (英会話・地域の歴史・パソコン操作)
趣 味 (生け花・合唱・舞踊・絵画)
健 康 (ヨガ・社交ダンス・健康体操・卓球)
青少年 (スポーツ少年団・子供会)

学びのサイクル



所得水準の向上・自由時間の
増大・高学歴化・少子高齢化

国際化・情報化・技術革新の
進展・家庭・地域の環境変化

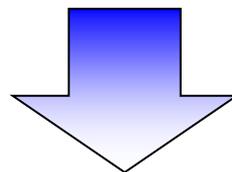
社会の成熟化

物の豊かさから心の豊かさ

社会の高度化

変化に適応する学習欲求

学習ニーズの多様化

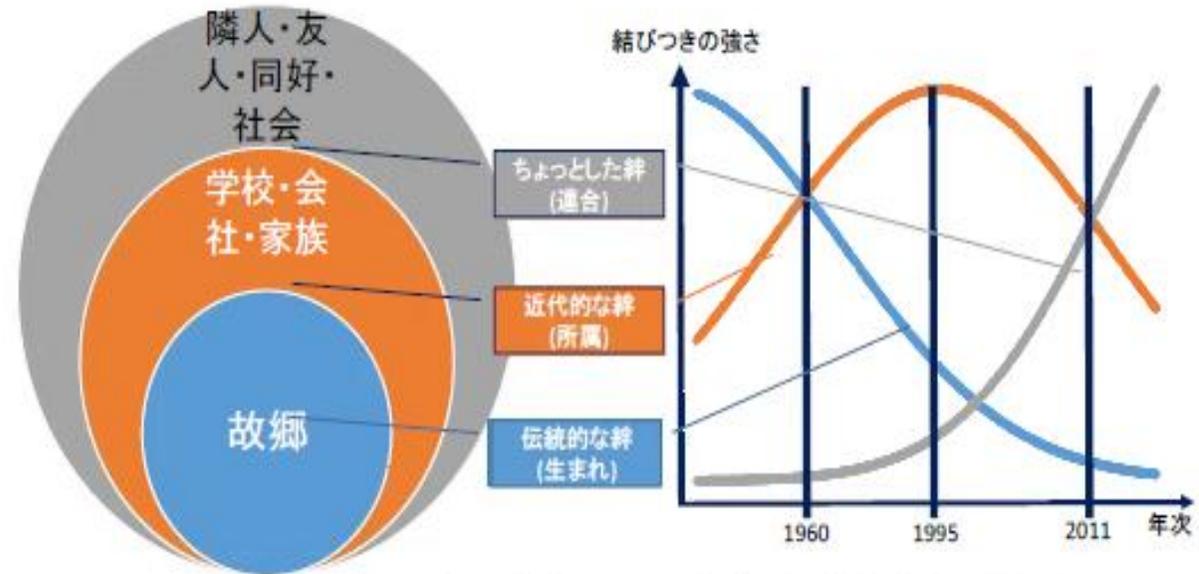
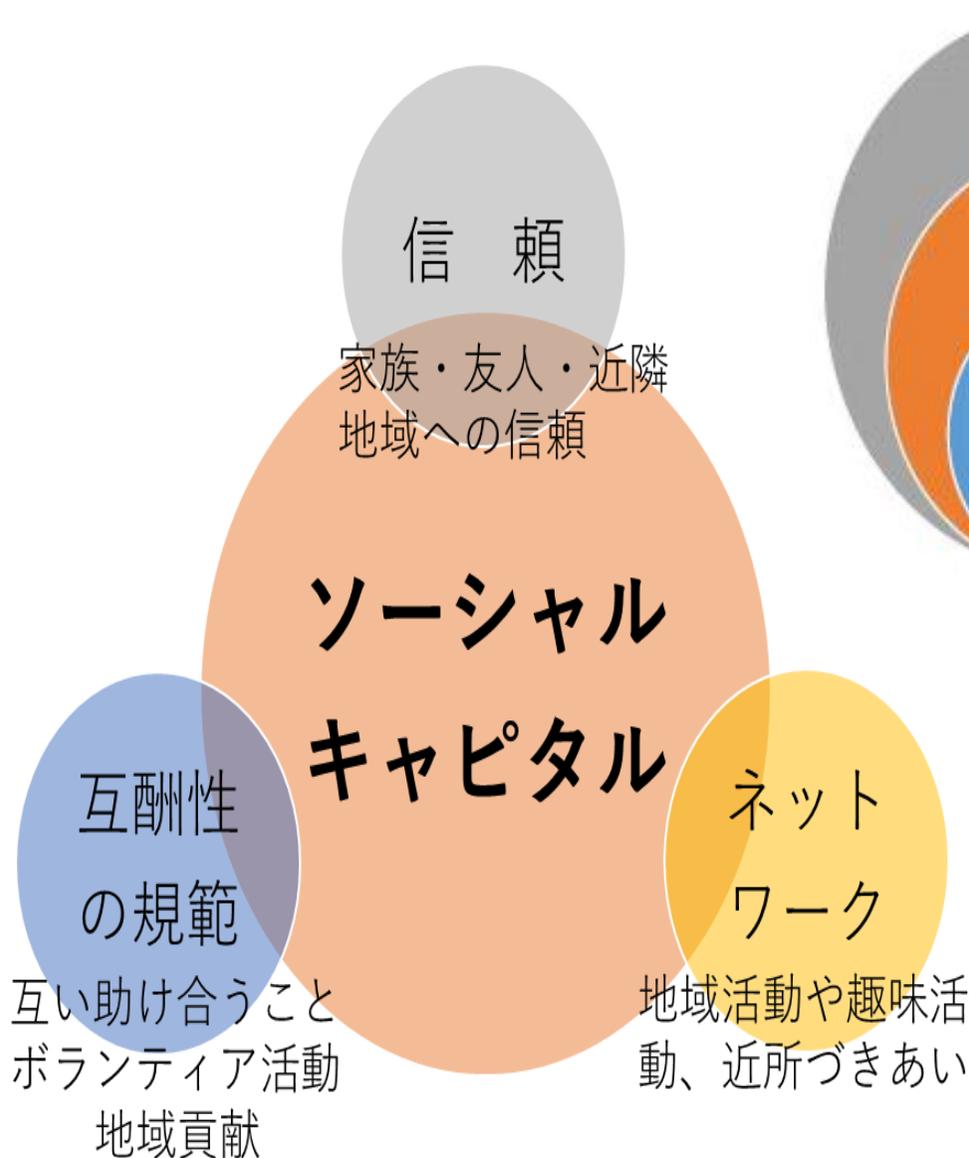


学習ニーズの高度化

学校教育で学んだ知識・技術だけでは足りえず、絶えず新たな、そして多様な知識・教養・技術を体得し、主体的に学んでいく必要がある社会となっている。

生涯学習社会の実現

社会教育主事は個の学びの充実を図りながら、個の学びを結び付け、まちづくりや地域づくりに結び付く、人づくりを担っているのではないだろうか。



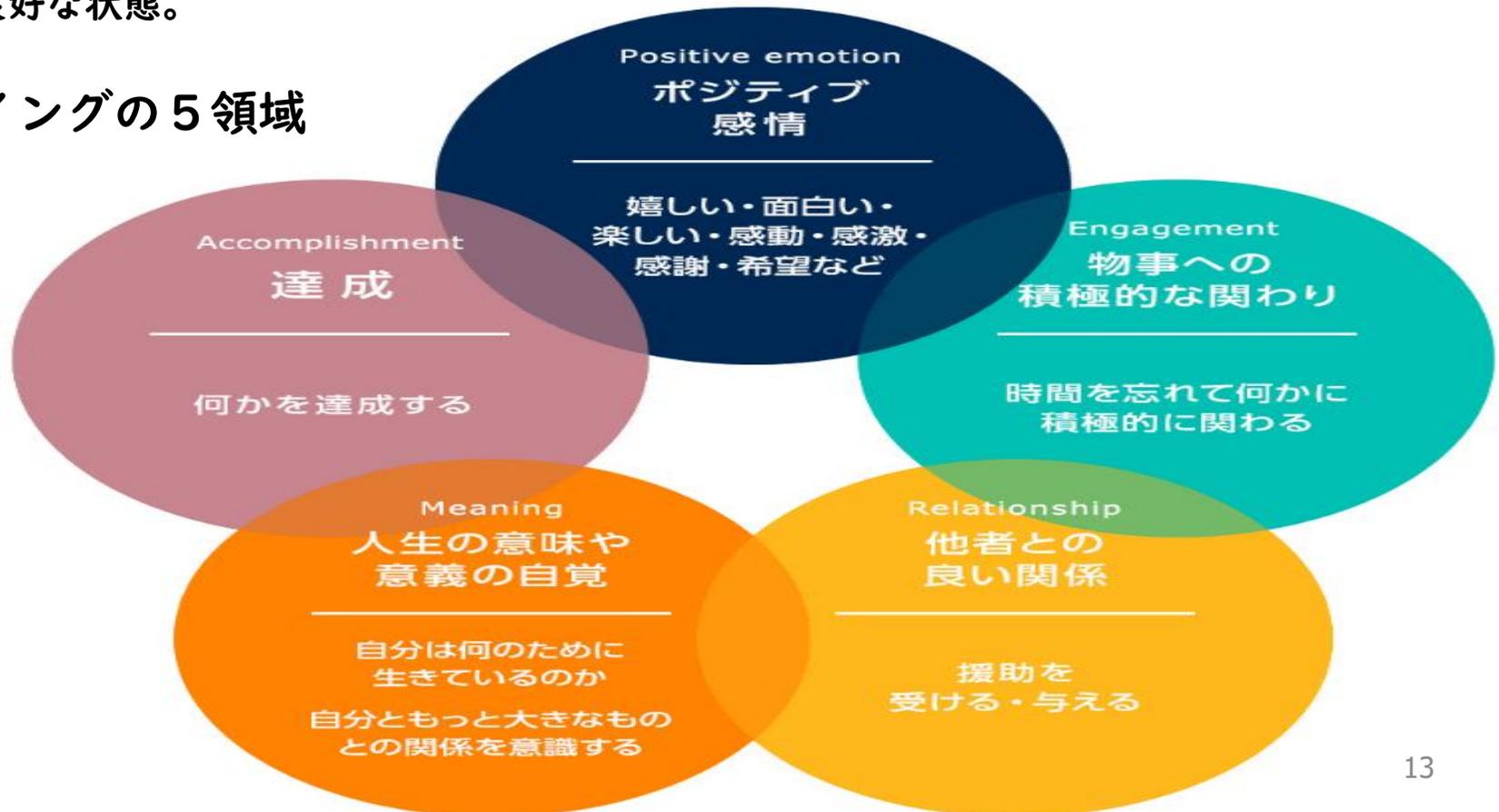
亀岡誠 現代日本人の絆—「ちょっとしたつながり」の消費社会論 日本経済新聞出版社 2011



ウェルビーイングとは「**持続的な幸福感**」とともにあること
瞬間的な幸せではなく持続的な幸せ

1946年に発表されたWHO憲章からで、この憲章でも「健康とは完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない」と記されている。つまり、WHOが定義したウェルビーイングとは、体だけでなく、精神の状態や社会の状態も良好な状態。

ウェルビーイングの5領域





まちづくりの根幹

「まちづくりは人づくり」

結び

ソーシャルキャピタル（集団）～コミュニティの活性化

学び

ウェルビーイング（個）～自己実現

生涯学習・社会教育の推進



- ハードとしての公民館

- ①中央公民館（S49）

- ②西の里公民館（S51）



- ソフトとしての公民館

- ①公民館運営審議会（15名）

- ②中央公民館運営（直営）

- ③各地区公民館運営委員会

（各地区会館）

- ④生涯学習推進

アドバイザーの配置（4名）



- 予算の縮減に伴う事業のマンネリ化
- マンパワーの確保（高齢化）の難しさ
- 公民館運営審議会・運営委員会の活性化
- 地域課題と学びの連動の取り組みの難しさ
- 分散地域における地域の学習ニーズの違いなどの確かな把握の難しさ
- 各地域の団体活動の停滞感
- 地域住民の関心の薄さ
- 自身の力の無さ

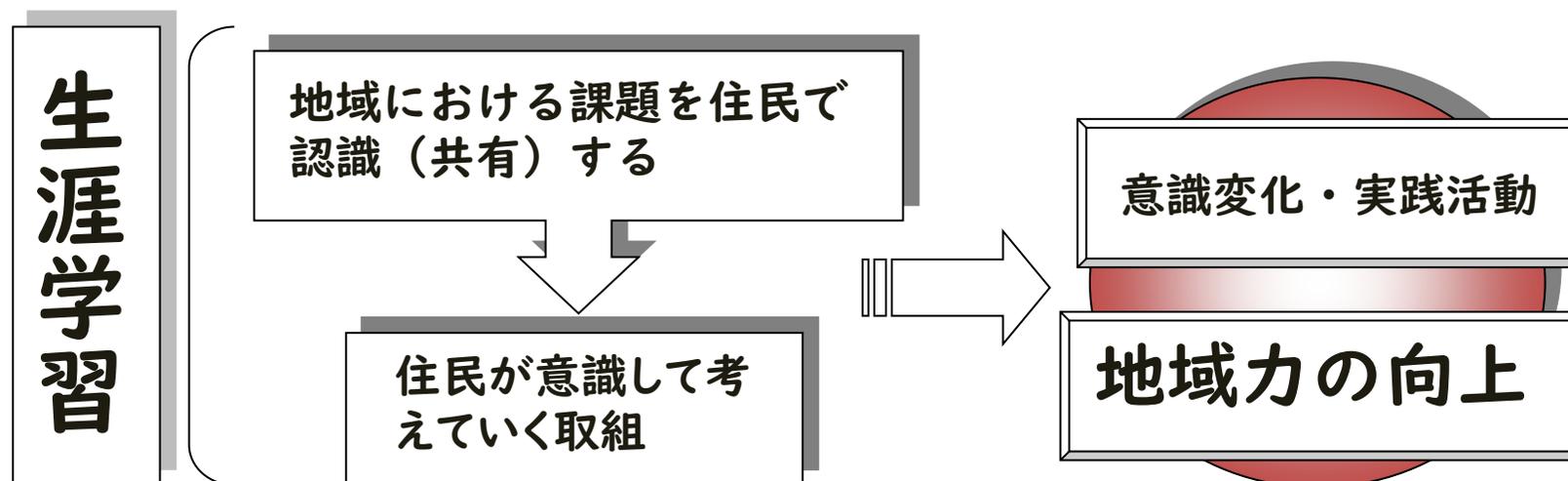
市民が自分たちで考え、
自分たちで展開できないか！！

- 平成11年の社会教育法の規制緩和により公民館運営審議会の必
置制が撤廃（社会教育委員の会議一本化）
- 公民館活動を含む生涯学習活動の柔軟な運営
- 平成18年の教育基本法の改正
- 平成20年市民協働参画条例の施行（北広島市）

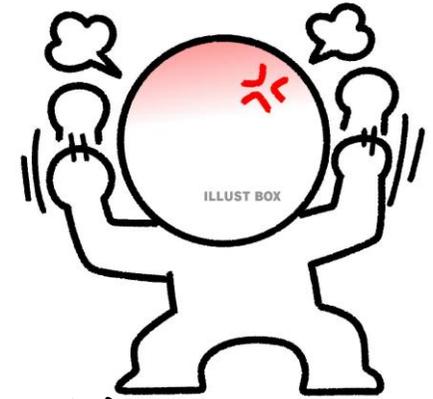


行政主導から市民主導の取り組み
あらゆる地域資源のネットワーク化
行政としては協働の観点からの支援

- 市民一人ひとりの学び（生涯学習）により、主体的な**地域づくり、まちづくりの担い手づくり**
- 地域住民が地域課題を共有し、**それぞれの経験や知識、学びの成果を生かし**、課題解決に向けることにより**地域力の向上**
- 市民協働と住民自治の推進



- 行政は地域に丸投げするのか
- 面倒くさくてやってられるか
- 余計な団体を作って混乱させるな
- 生涯学習とか社会なんちゃらってなんだ
- 勉強なんて興味ない



- こんな取り組みを待っていた
- 世代交代の良いチャンス
- 地域団体活動の活性化のチャンス



- ▶ 平成18年4月 西部地区生涯学習振興会設立
- ▶ 平成19年6月 西の里地区生涯学習振興会設立
- ▶ 平成20年4月 大曲地区生涯学習振興会設立
- ▶ 平成24年5月 東部地区生涯学習振興会設立



	西部	西の里	大曲	東部
29年	38事業72回 (参加2,355人)	47事業120回 (参加3,710人)	43事業54回 (参加2,716人)	21事業32回 (参加1,229人)
30年	33事業77回 (参加2,139人)	40事業97回 (参加3,294人)	40事業52回 (参加2,631人)	25事業36回 (参加1,646人)
元年	31事業54回 (参加2,118人)	40事業89回 (参加2,963人)	38事業50回 (参加2,672人)	25事業39回 (参加1,304人)
	20事業41回 (参加697人)	24事業50回 (参加842人)	28事業39回 (参加588人)	15事業20回 (参加465人)
2年	20事業40回 (参加784人)	25事業61回 (参加989人)	26事業36回 (参加536人)	16事業23回 (参加505人)
3年	26事業44回 (参加791人)	26事業61回 (参加946人)	31事業43回 (参加799人)	23事業35回 (参加812人)
4年	26事業44回 (参加1,008人)	26事業83回 (参加1,100人)	35事業48回 (参加952人)	28事業47回 (参加902人)
5年	29事業50回 (参加1,112人)	24事業81回 (参加1,326人)	33事業46回 (参加1,059人)	26事業44回 (参加1,098人)
6年				

①交流・連絡調整機能の向上

・互いに参加しあう ・地域全体で事業展開

②人材創出の機能の向上

・新たな人材の活躍

③学習機会の提供機能の向上

・地域の要望による催しの開催



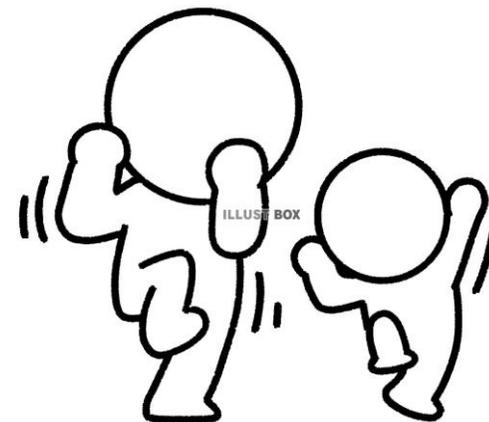
- 地域の人が見えてきた
- 各種団体との連携による事業の実施を通し、それぞれの団体活動の活性化が図られた
- 地域課題を共有することができ、みんなで解決しようという機運が高まった
- 世代間の交流が活発化した
- 生涯学習の基盤整備が図られ、個の学びや地域の力を活かしたまちづくり事業への取り組みが活発化した
- 地域の魅力の再発見・再確認ができた
- 地域の人を巻き込んでいく中で、その人たちに課題意識や当事者意識を持ってもらえるようになった
- 地域の子どもは地域で育てる機運が高まった
- 地域のニーズを一番近いところで捉え、事業化できた
- 子ども対象の事業に見えて実は、関わる大人たちの社会教育活動の実践となっている
- 行政ではできない事業内容や低予算で実現できた

地域の中で「地域（自己）肯定感」と「地域（自己）有用感」の高まり

- 食わず嫌い（地域でうけの良い事業が多くなる）

考えるのを止めて好きな物しか食べなくなる

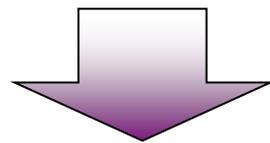
「お肉ばかりではなく、野菜もね」



- スクラップ&ビルドがしづらい
- 継続的な学びにつなげる組織化・サークル化が課題となっている
- 地区により考え方が違う（良い面もある）
- 地域のステータスを得てきているが故、色んな場面で頼りにされる
- 地域間交流への展開

まだまだ、発展途上

地区生涯学習振興会の会員は地区に住む住民一人ひとりが会員となり、**住民が主体となり**、地域づくり・コミュニティ活動の要として、生涯学習の振興・健康づくり・生活文化の向上等、**地域コミュニティの活性化**が図られ、これまでの行政主導（自前主義）から住民主導のネットワーク型への移行により、**地域の教育力を活かした地域力の向上**へ結びつく。地域住民が主体的に地域を場として時系列に応じた学びの場を生み出し、**ソーシャルキャピタルが高まり、ウェルビーイングの向上**が図られた。



地域づくりの要としての組織





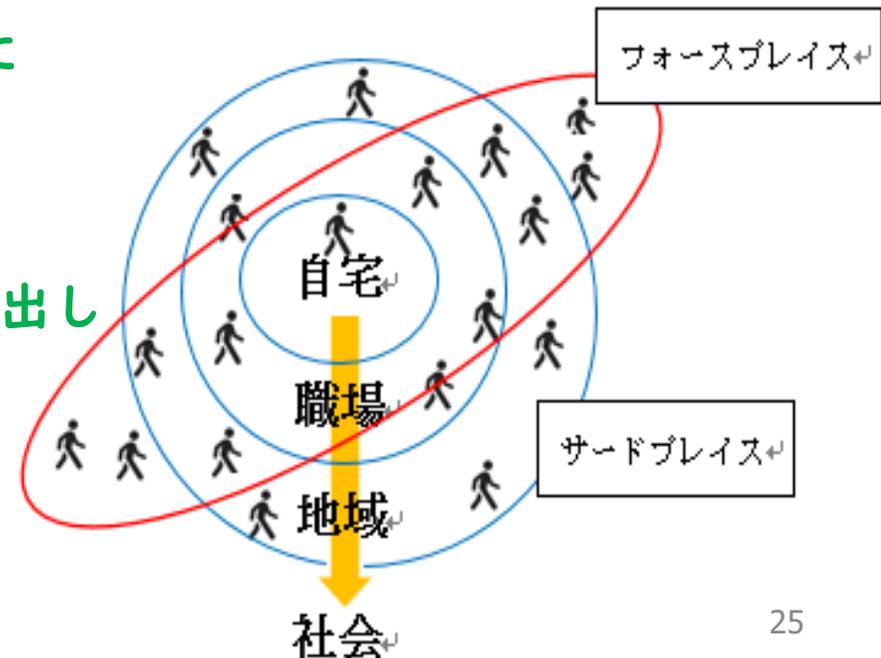
フォースプレイス（第四の居場所）

- 居場所は名称も「カフェ」「サロン」「スペース」「広場」など目的や雰囲気に合わせて多種多様
- 自宅を「第一の居場所」
- 職場や学校「第二の居場所」
- 居心地の良い場所「第三の居場所」
(共通の悩みや目的をもった自分らしさを取り戻す場所)
- 目的を持った積極的なつながりの場所「フォースプレイス（第四の居場所）」
(異質な人々が問題解決のために集う居場所)

▶ 「生涯学習振興会」や「コミュニティスクール（CS）」等をいかに「第四の居場所」として成熟させるか

▶ 今後は、どのように学びを通した「フォースプレイス（第四の居場所）」を生み出しまちづくりに結び付けるか

▶ 社会教育主事の力量が問われ
地域格差の要因に結び付く可能性がある



「共創」を生出す関係性

「そこに誰が居るのか」異質な人を「混ぜる」ことで新たなソーシャルキャピタル

ネットワーク

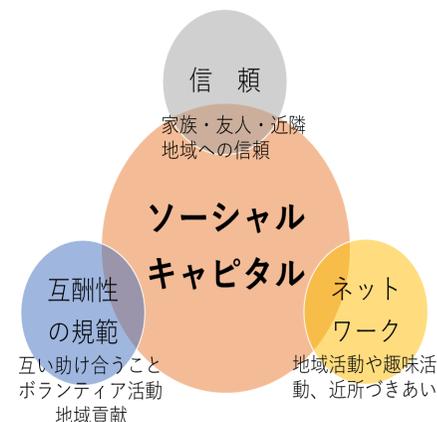
ネットを張ってワークを達成する



【考え方転換】

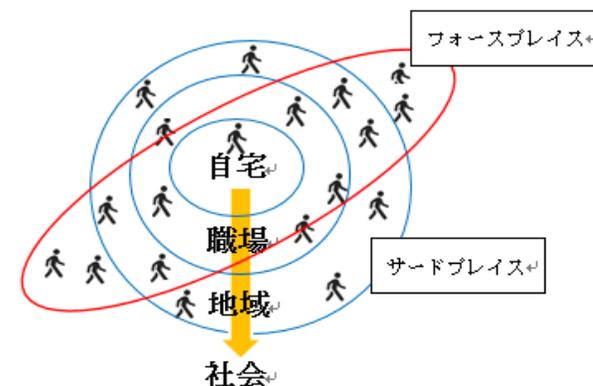
ワークネット

ワークを明らかにして
そこに誰が居たらよいのかネット張る



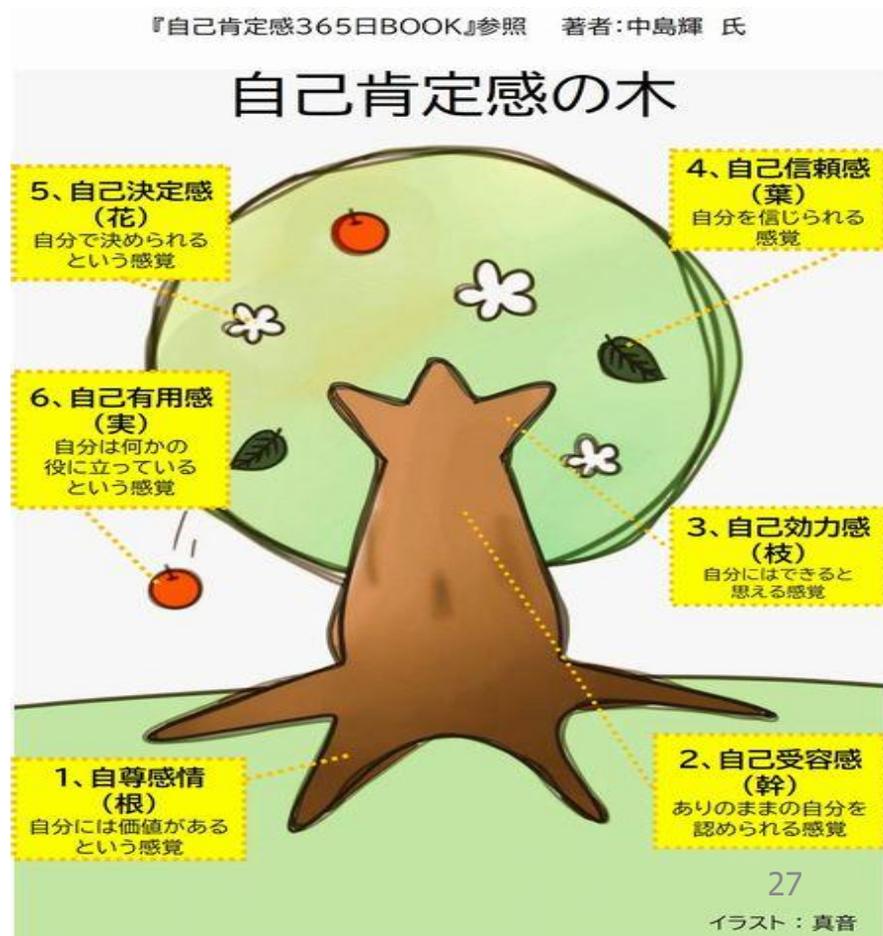
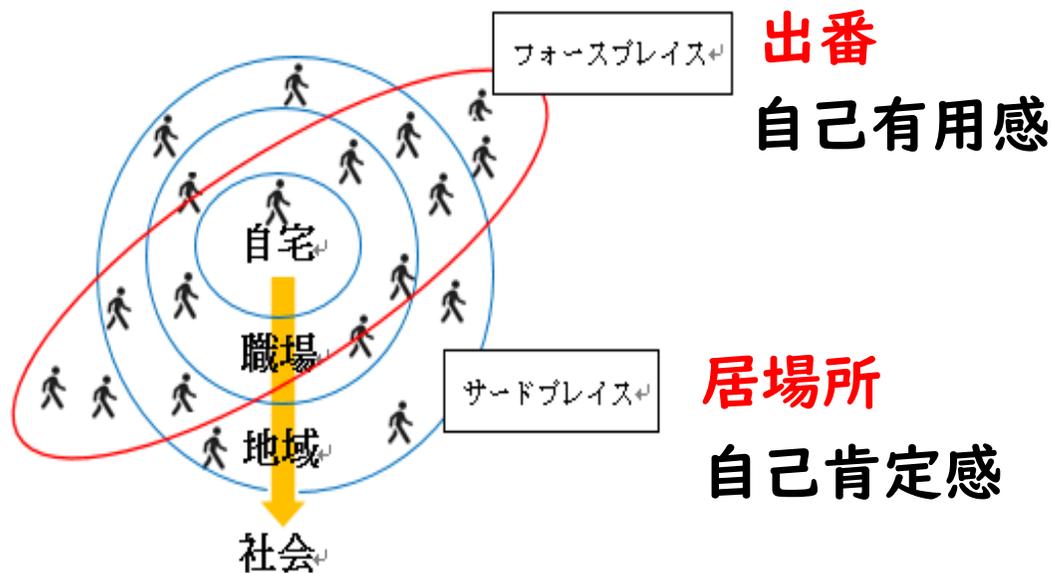
○そのためには、顔の見える関係性

○多様な関係から目的（ワーク）を持って「越境」し結び付くことが基盤となる



「居場所」とは、安心して「居られる」場所。自分が存在していいのだと心から思える場所、コミュニティ、関係性。

「出番」とは、自分ならではの貢献、自分が他者の役に立っているという実感がもてる場面があること、いわゆる活躍の機会。



HOKKAIDO BALLPARK **F** VILLAGE

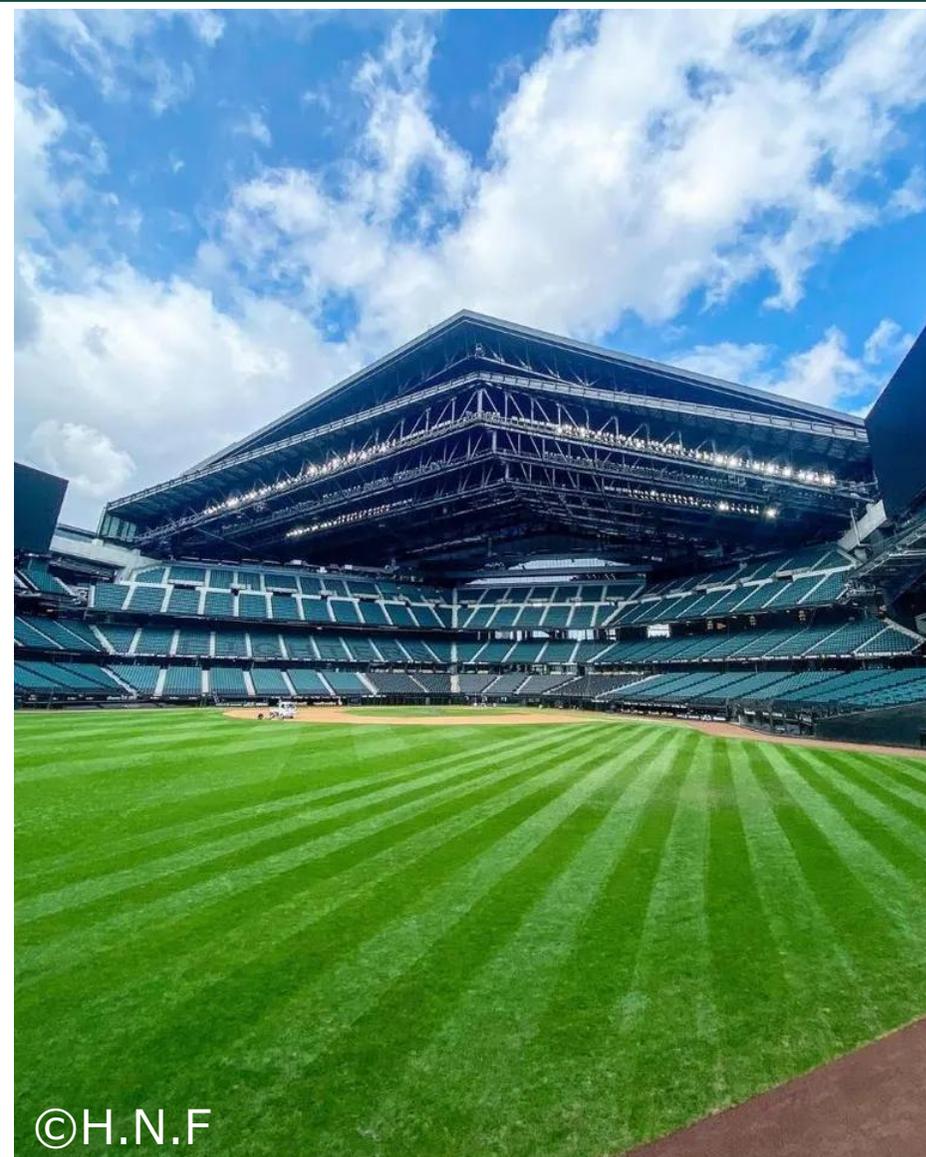
との連携・協働



北広島市



HOKKAIDO NIPPONHAM
FIGHTERS



©H.N.F



©H.N.F

- 【仕様】 開閉式ルーフ・天然芝フィールド
- 【建築面積】 約 50,000㎡
- 【延べ面積】 約 120,000㎡
- 【収容人数】 約 35,000人
(座席数 約 30,000席)

【開業】 令和5年3月30日
【来場者数】 来場者数300万人突破 (9月末現在)

建設地

旧：きたひろしま総合運動公園予定地
約32ヘクタール

F HOKKAIDO
BALLPARK
F.VILLAGE



平成14年

(2002年)

- ・ **室内練習場**の誘致において、**ファイターズ**と初めて接点を持つ

平成27年10月

(2015年)

- ・ **官民連携**による**総合運動公園整備**の検討調査を開始

平成27年12月

(2015年)

- ・ プロの試合も可能な野球場について、**ファイターズ**と**意見交換**

平成28年5月

(2016年)

- ・ **ファイターズ**の新球場構想が**報道**

平成28年6月

(2016年)

- ・ 平成28年第2回定例会で新球場誘致について**市長行政報告**
- ・ **ファイターズ**球団事務所訪問、誘致活動を行っていく旨の申入れ
- ・ **日本ハム**と**ファイターズ**より新球場構想の**調査検討開始を発表**
- ・ 北広島市から**ファイターズ**へ**提案書**を提出

北広島市
目指す都市像

ファイターズ
企業理念



＜目指す方向の一致＞

先を見据えた連携・協働

スポーツを活かしたまちづくり

平成30年3月

(2018年)

- ・「きたひろしま総合運動公園予定地」が、ボールパーク候補地として、**内定**をいただく

(何処でやるかではなく 誰とやるか)

平成30年10月31日

(2018年)

- ・きたひろしま総合運動公園予定地での新球場（ボールパーク）建設が**正式に決定**

令和2年4月13日

(2020年)

- ・新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」の建設工事に**着工**（起工式の開催）

令和5年1月

(2023年)

- ・新球場「ES CON FIELD HOKKAIDO」**竣工**予定（令和5年3月 開業予定）



- 北広島市には北海道日本ハムファイターズが本拠地を構えています。
- 2023年3月、プロ野球チーム北海道日本ハムファイターズの新球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」を核とする「北海道ボールパークFビレッジ」が開業しました。
- 「北海道ボールパークFビレッジ」は野球観戦だけでなく、試合がない日でも、買い物や食事、レジャーを楽しむことができる賑わいや交流を創出するエリアで構成される空間です。



©H.N.F

ボールパークの賑わい



年間来場者数

418 万人 (令和6/1/1~令和6/12/31)

今年6月21日には、**累計 500** 万人達成

来場者内訳

試合観戦以外

51 %

道外来場者

約 **102** 万人
(全体の約30%)

経済効果 の試算

北広島市への経済効果
年間 **500** 億円

北海道への経済効果
年間 約 **1,000** 億円

ボールパーク波及効果の具体例

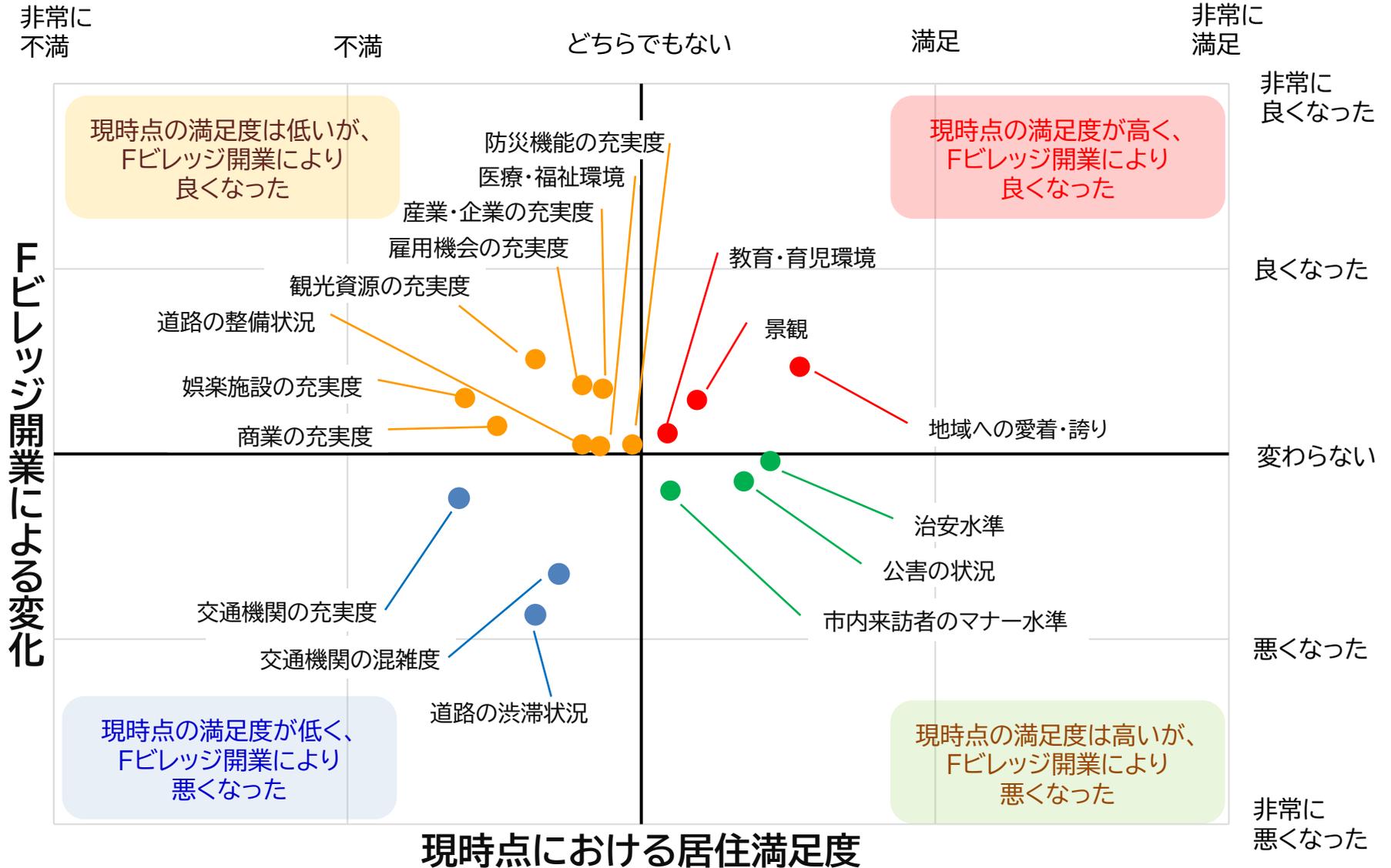


- 地価の上昇
- 新たなふるさと納税返礼品の誕生 →
- 市のイメージ向上(認知度の向上)
- 定住人口の増加(ファンやファイターズ 職員の移住)
- 市内事業者、飲食店等の増加
- 税収の効果
- 来場者(来市者)による経済効果
- 地域住民や商店街による独自の機運醸成活動
- 学校教育でのスポーツ教育 →
- 娯楽施設の増加
- 公共交通(バス)の利用者の増加?
- 防災施設としての活用
- 雇用の創出→延べ1万人
- 高齢者の社会参加促進
- JR北広島駅周辺への好影響。新駅
- ファイターズラン(ロードレース) →
- 子育て支援施設の増加?



ほか

ボールパークの効果



■安全・安心の確保に向けた取組

1. 迷惑駐車対策

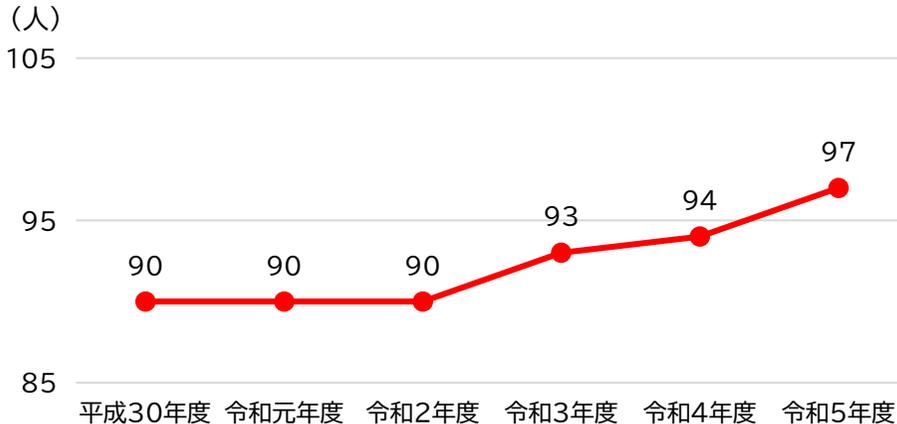
看板とコーンの設置後は減少傾向だが、今後も球団や警察と連携を図り、対策を強化



2. 救急体制の強化

想定される消防・救急出動件数の増加に対応するため、消防職員を増員

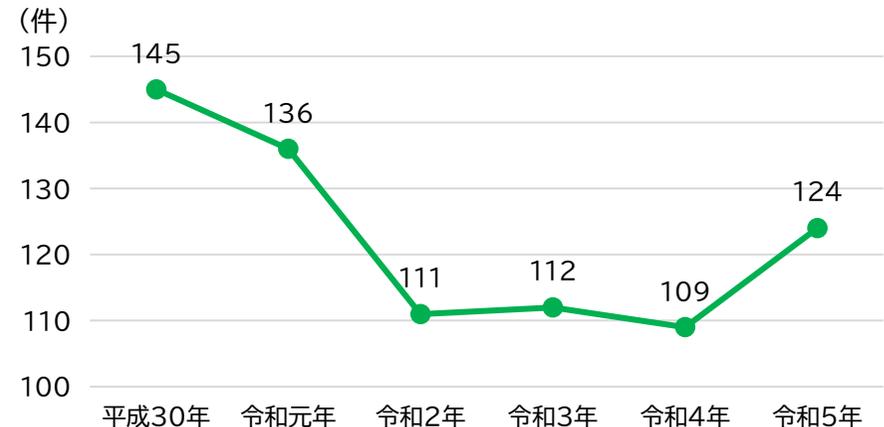
市消防職員数の推移（各年4月1日）



3. 交通安全対策の強化

北海道警察と連携し、交通量に応じた信号機制御等による交通安全対策を実施

市内交通事故(人身事故)発生件数



ボールパークの効果



■ 税収の推移 ※平成29年～令和5年度の調定額ベース

- 個人市民税 **約 1.1 億円増** (平成29年度比)
- 固定資産税 **約 5.2 億円増** (平成29年度比)
- 都市計画税
- 法人市民税 **約 5 千万円増** (令和2年度比)

✓ 令和2年度に、法人市民税の法人税割税率が14.8%から8.4%へ引き下げられた影響を打ち消し (実質増)

■ 個人版ふるさと納税の推移 (平成29年度比)

約 13 倍の約 3 億 25 百万円

○ 今年度は、昨年11月からスタートした『ファイターズふるさと納税』が好調

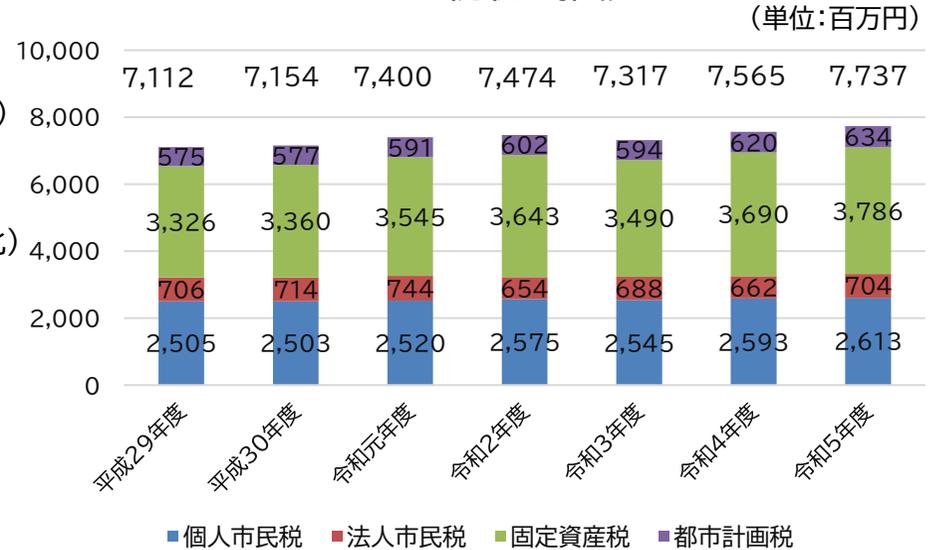
■ 水道料金・下水道使用料 (令和4年度比)

約 2,560 万円増 (市内の平均的世帯約460世帯分※)

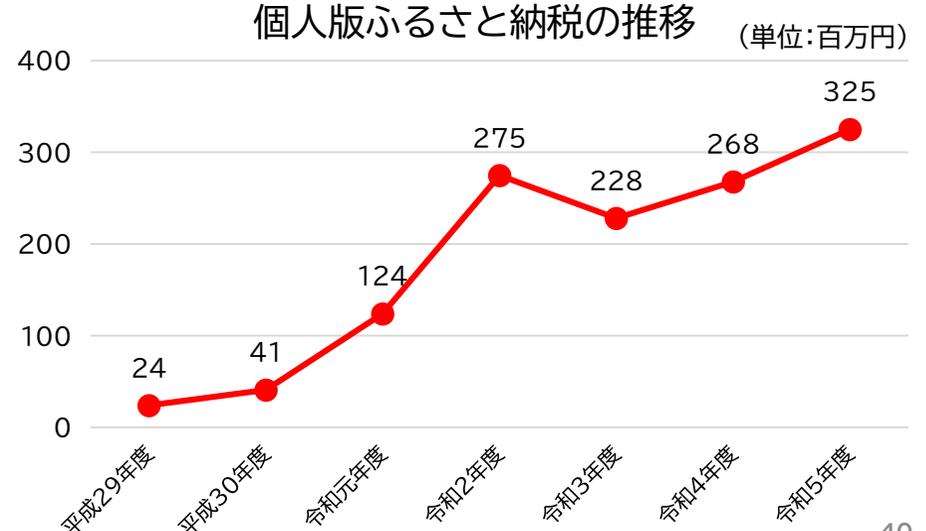
○ 人口減少に伴う料金等収入の減少を補い、平成29年度並みの水準を維持

※ 1世帯3人家族で月15㎡ (税抜4,625円×12月) で試算
※ 令和4年度に実施した減免分を含めた差分

主な税収の推移



個人版ふるさと納税の推移



<観光入込客数(延べ人数)の多い市町村>

順位	市町村名	入込客数	前年度比	H30年度比
1	札幌市	1525.7万人	+4.9%	▲3.7%
2	小樽市	806.9万人	+6.0%	+3.3%
3	函館市	602.2万人	+13.9%	+14.5%
4	北広島市	537.3万人	+15.8%	+321.0%
5	旭川市	486.8万人	+2.8%	▲7.6%
6	喜茂別町	475.9万人	▲6.7%	+94.4%
7	釧路市	455.8万人	+9.0%	▲14.0%
8	登別市	334.2万人	+2.2%	▲11.7%
9	苫小牧市	289.4万人	+9.8%	+45.1%
10	美瑛町	268.6万人	+12.5%	+18.8%
11	音更町	255.5万人	+3.0%	+71.0%
12	白老町	232.3万人	+8.9%	+54.3%
13	帯広市	231.0万人	▲5.7%	▲21.0%
14	洞爺湖町	228.4万人	▲2.6%	▲11.9%
15	石狩市	227.1万人	+0.2%	▲10.5%
16	長沼町	217.8万人	+1.7%	+206.8%
17	七飯町	214.7万人	+9.7%	▲7.9%
18	当別町	189.2万人	+16.4%	+59.6%
19	富良野市	185.4万人	▲1.9%	▲3.4%
20	千歳市	184.5万人	▲2.7%	▲62.9%

<宿泊客延べ人数の多い市町村>

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比	H30年度比
1	札幌市	1720.8万人泊	+12.6%	+25.3%
2	函館市	472.7万人泊	+20.3%	+7.2%
3	釧路市	131.7万人泊	+4.8%	▲14.0%
4	小樽市	118.8万人泊	+5.3%	+25.2%
5	帯広市	115.8万人泊	+6.8%	▲8.9%
6	登別市	108.6万人泊	+1.4%	▲13.0%
7	旭川市	103.2万人泊	+5.9%	▲4.8%
8	倶知安町	88.4万人泊	+1.7%	▲30.7%
9	富良野市	86.4万人泊	+12.3%	+29.3%
10	占冠村	68.4万人泊	▲0.1%	+3.0%
11	洞爺湖町	64.6万人泊	+1.2%	▲10.6%
12	北見市	58.7万人泊	▲4.3%	▲15.6%
13	二セコ町	58.1万人泊	+0.2%	+14.4%
14	上川町	45.8万人泊	+8.8%	▲23.1%
15	網走市	39.6万人泊	+7.8%	▲10.7%
16	千歳市	38.7万人泊	+11.3%	+9.3%
17	音更町	37.8万人泊	+1.0%	▲14.2%
18	斜里町	37.2万人泊	+13.2%	▲14.9%
19	留寿都村	35.8万人泊	▲6.9%	▲6.9%
20	稚内市	35.5万人泊	+0.8%	▲3.4%



2025.3 北広島駅西口
「トナリエきたひろしま」開業



2026 秋
北広島駅西口レジデンス 完成



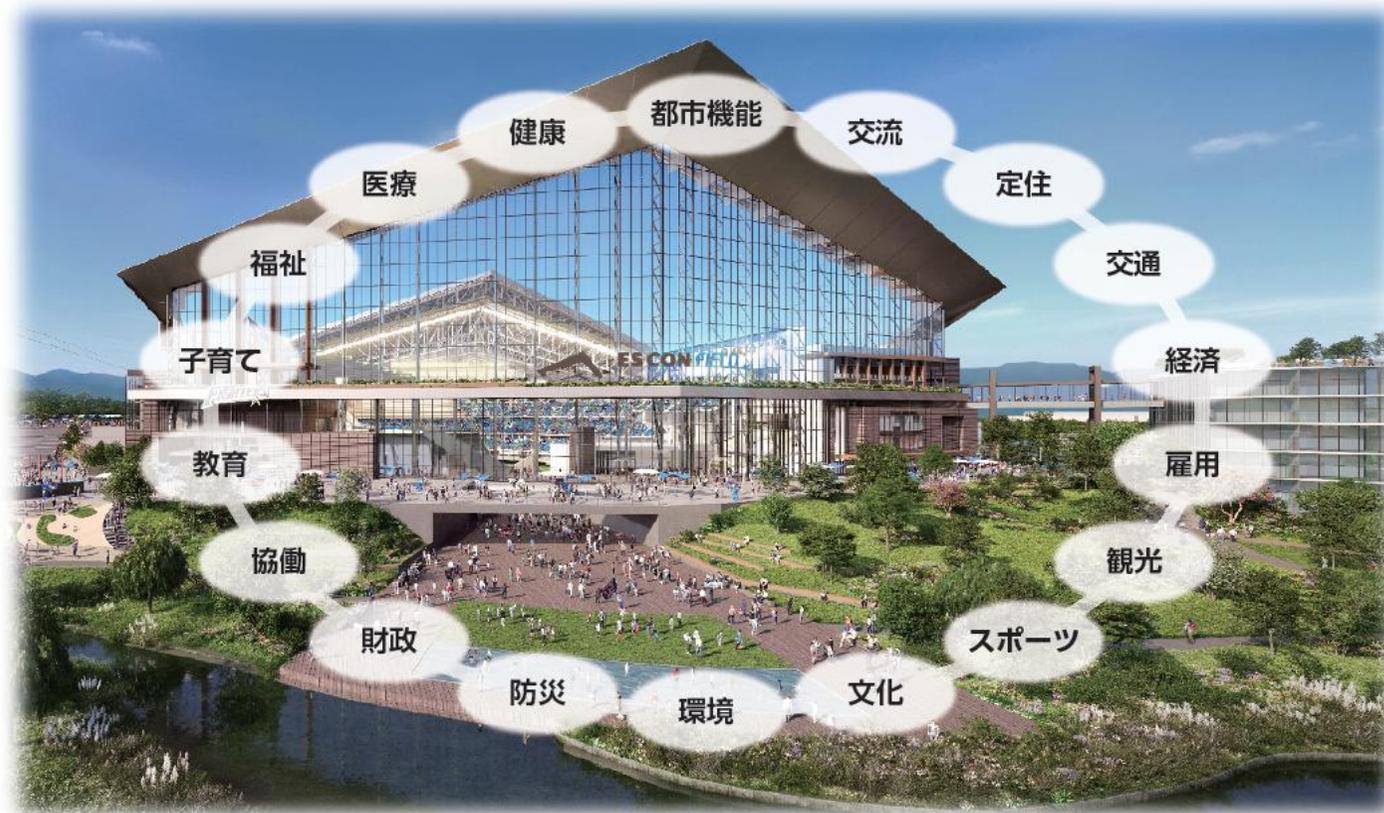
2028 春
JR新駅 竣工
北海道医療大学 移転



イメージ図提供：(株)日本エスコン

イメージ図提供：(株)ファイターズ スポーツ&エンターテイメント

官民連携プロジェクトとして、新球場を核としたボールパークを整備することで、まちづくりの様々な分野に**波及効果**を生み出し、持続可能な都市経営と**地域課題**の解決を図る構想



- 1) スピード感 ⇒ 理解力、足し算から掛け算、意思決定、提案型
- 2) アジャイル ⇒ トライ&エラー、見切り速さ、目標変更
- 3) 夢・未来を想像する力 ⇒ 創造と想像、既成概念・固定観念打破、夢には日付
- 4) どうやったらできるか ⇒ 楽な道を選択しない、
- 5) 0を1に ⇒ 創造することの喜び、0の発見
- 6) 5 1対4 9 ⇒ 民間連携の肝、最小の利益と最小の損
- 7) 9割の当り前と
1割の挑戦 ⇒ 凡事徹底、棚の下にいる努力
- 8) 価値観の共有 ⇒ 原点づくり、互いの尊重、信頼
- 9) 対等な関係 ⇒ できる、できないを本音で話せる関係
- 10) 覚悟 ⇒ 街への想い、将来ビジョン、立ち止まらない覚悟



政府、企業、個人・コミュニティといったさまざまなステークホルダーが、自らの置かれた社会的状況を継続的に分析し、目指すゴールを設定した上で、それを実現するためのシステムや法規制、市場、インフラといったさまざまなガバナンスシステムをデザインし、その結果を対話に基づき継続的に評価し改善していくモデル

①スピード

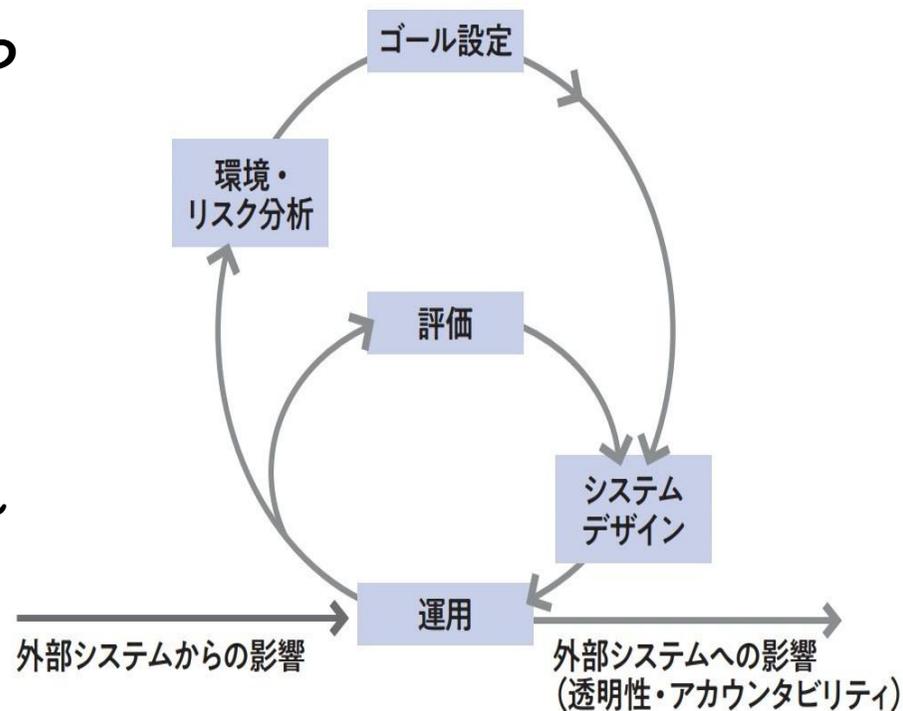
- ・ Society5.0の世界では多くのデータとつながる
- ・ 短期間での環境変化に伴い、ガバナンスも短期間で対応するスピードが重要
- ・ 災害やパンデミック

②変化

- ・ Planの土台である「環境」の変化、それに伴う「ゴール」の変化もアップデート

③トライアンドエラー

- ・ 素早い実施と臨機応変な運用



まちづくりにを発展・充実するうえで協働を基本としていくことが大切であり、そして、発展型としてともに創り上げてく関係づくり

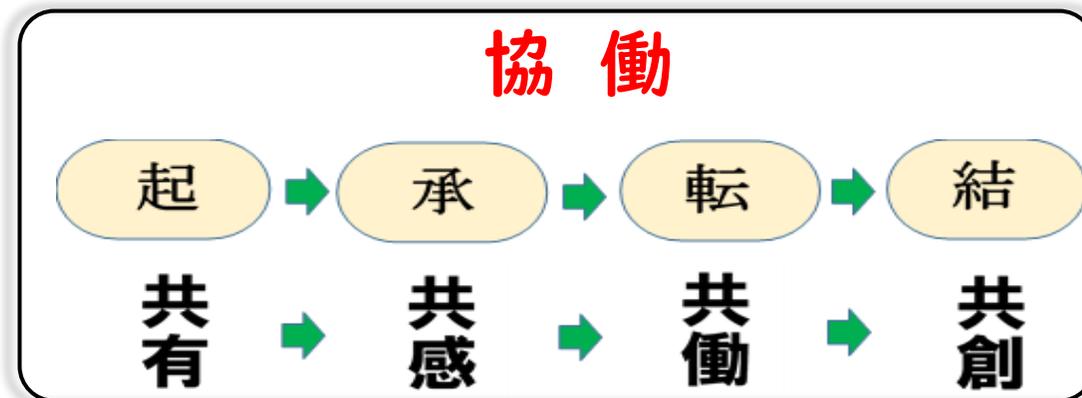
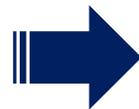
▶基本として協働（きょうどう）

ともに働く関係（足し算）・ともに創り上げていく関係（掛け算）

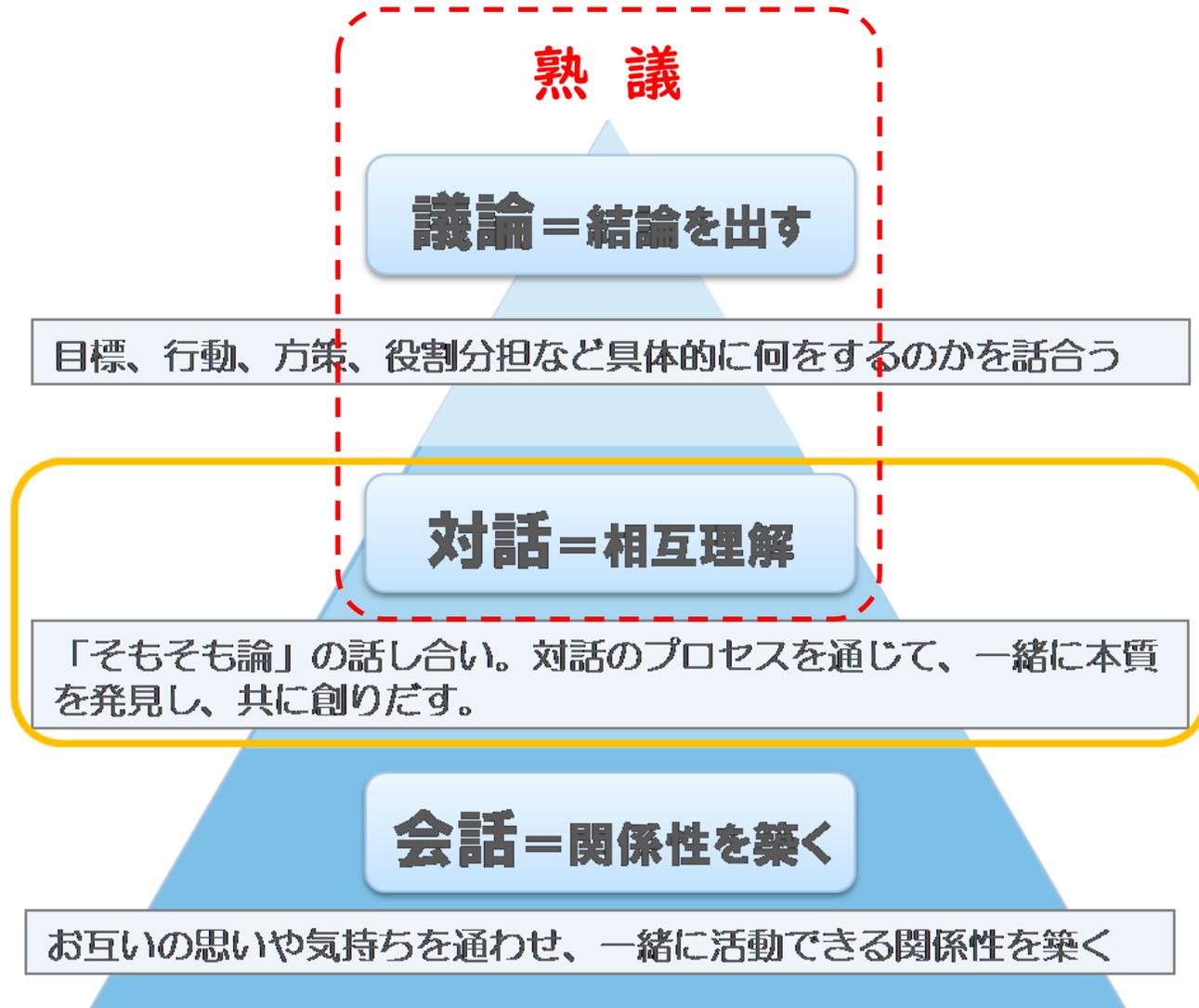
キーワードは

「対話」

PROCESS



「対話」「議論」
相互理解を超えた、
新しい何かを生み
出す創造的行為



(出典) ワークス108号特集「対話=ダイアログで紡ぐ人と組織の未来」



まちづくり × 社会教育主事 =

P
D
C
A

Plan (計画)

Do (実行)

Check (測定・評価)

Action (対策・改善)

Passion (情熱)

Dream (夢)

Challenge (挑戦)

Act (行動)

持続可能なまちづくり

- まちは市役所のものではなく市民のもの
→市民を信じ行政は協働の観点/市民第一
「美しい花が咲くのは隠れた根のおかげ」
- 市民のまちに対する愛着心
(郷土愛・ふるさと意識) の醸成
→自己肯定感や有用感の向上
- 地域の資源・魅力を再発見・再認識
→地域の宝を活かしたまちづくり

シビックプライド

「地域への誇りと愛着」の向上